

MIZUHO

瀬木学園だより

学校法人 瀬木学園

愛知みずほ大学・大学院

愛知みずほ短期大学

愛知みずほ大学瑞穂高等学校



July
2023

Vol.36

「とっておき MIZUHO」(大学).....	1・2
「新生MIZUHO」(大学・短大・高校).....	3・4
「きらり☆MIZUHO」(高校).....	5
「INFO MIZUHO」(大学・短大).....	5
「瑞想録」.....	5



今号はトップレベルで活躍する学園アスリートみなさんに焦点を当てました。その中でも一押しはエアライフルの国際大会に出場した大学の藤枝乙葉さん(養護・保健コース3年)です。特集としてお伝えします。また、さらなる教育環境の充実のために改修が始まった大学・短大2号館(高校西体育館)に関する第一報もお伝えしますので合わせてお楽しみください。



とっておき
MIZUHO

ターゲットは海を越えて 藤枝乙葉さん(大学)

今回の「とっておき」では、今年5月にアゼルバイジャンの首都バクーで開かれたエアライフルの国際大会 (ISSF WORLD CUP RIFLE/PISTOL) に日本代表として出場した愛知みずほ大学の藤枝乙葉さん(養護・保健コース3年)をご紹介します。帰国後にインタビューした内容を、キーワードを用いてお伝えします。



きっかけ



競技を始めたきっかけは、5歳上の兄が高校3年生のとき出場した全国大会の応援に行き、競技を見て、「面白そう」と思ったことです。それで、同じ高校に進み、同じ射撃部に所属して競技を始めました。高校時代からインターハイや国体などの全国大会に出場し、大学でも昨年度のインカレで優勝しましたが、日本代表として国際大会に出場したのは今回が初めてです。

エアライフル

藤 枝

FUJIEDA Otohara

乙 葉 さん

(養護・保健コース3年)

練習



高校時代は放課後に平日2時間程度、休日は午前・午後とも練習に充てていました。大学に入ってから主には土・日に集中して練習しています。3年生になった現在は授業がない日も練習に充てています。

心がけ

緊張するタイプで、試合前は仲間に話しかけて気を紛らわせます。いざ試合に臨むときには「人は人、自分は自分」と自身に言い聞かせています。

取材当日は日本代表ジャージを着てきてくれました





満点をとったときの
喜びが何とも言えない
魅力で、シューティン
グ時の振動(衝撃)と音
もたまりません。

魅 力

国際大会出場

正直なところ、「歯
が立たない」という感
じでした。国内と海外
とのレベルの違いを
痛感しました。

大会前に行われた壮行会の様子(1号館503教室)



壮 行 会

大会前の4月に学生会が中心と
なっており、壮行会を開いていただき
ましたが、とても励まされて、がんば
ろうという気持ちになりました。み
なさんの応援は大きな力になりま
した。

0.5mm

エアライフル10mの
標的の外線直径は
45.5mmで、中心に向かって1点
5mmずつ小さくなっていきます。最
最終的に満点(10点)が与えられる真
ん中はわずか0.5mmの大きさです。



3 種 類

射撃時の姿勢(構え)は、立射:
Standing(S)・膝射:Kneeling(K)・
伏射:Prone(P)の3種類です。得意な
のは立射で、苦手なのは安定させる
のが難しい膝射です。

目 標

まずは「NT選手」(ナショナルチーム
のメンバー)に選ばれるような好成績を残す
ことで、将来はオリンピックに出場することです。

取材後記

特定の指導者はいないそうです。そのため、「頼れるのは自分だけ」とい
う気持ちで研鑽を積んでいるとのこと。また、遠征費などは強化費として所
属するチームを主宰する三重県から支給されるものの、その他の費用は自
己負担なのでアルバイトをしているそうです。学業、練習、アルバイトと忙
しい毎日ですが、たまの休みには大学の友人たちと出かけたりするそう
です。取材中に、たまたま、きれいなネイルが目に入ってきたので、そのこ
について尋ねると、「おしゃれはモチベーションを上げてくれる」との答え
が返ってきました。そう答えるときや友だちのことを口にするときの表情
は競技中の精悍な表情とは異なり、明るく穏やかで、日本代表のシューター
であることを忘れるくらいでした。ちなみに、表紙の写真で銃の近くに見ら
れるマスコットもモチベーションを上げてくれる存在だそうです。藤枝さ
んの今後の活躍を期待するとともに目標を達成できるように学園を挙げて
応援していきたいです。



休日に大学の友人と過ごす藤枝さん(奥)

※大学、短大、高校の共用施設。最上階は高校の「西体育館」。本文では「2号館」と表記。

「環境は意識を変える」——新しい環境は新しい価値と意識を創出する。令和5年3月に2号館の改修工事が始まりました。工事は本年度中に完了し、令和6年の4月には生まれ変わった2号館で新たな価値の創出が始まります。本紙では今後も2号館のリニューアルについてお伝えしていきますが、今回は改修にあたってのコンセプトを中心に第一報をお届けします。校舎内外の各施設および高校西体育館改修についての詳細は次号以降、改めてご紹介します。



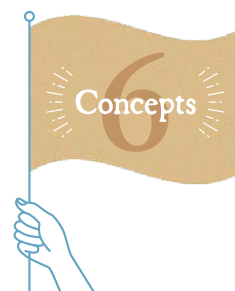
新しい2号館の外観イメージ(上・下)



改修前の2号館

新しい価値を生み出す 6つのコンセプト

- ① キャンパスアメニティの向上「心地よい自分の居場所」
- ② にぎわいの創出「皆が集まる場所の創出」
- ③ 色彩と光「明るく健康的な空間へ」
- ④ アクティブラーニング「自主学習・自己表現の場」
- ⑤ 社会・地域との関係性「開かれたキャンパス」
- ⑥ 可変性・柔軟性「サスナビリティ」



1

キャンパスアメニティの向上 「心地よい自分の居場所」

学生一人一人が居心地がよいと感じる場所を創出
授業以外でも快適に過ごせるように居心地のよさ、使い勝手のよさを第一に考えました。

3

色彩と光 「明るく健康的な空間へ」

自然光が建物内部まで入る空間を創出
間仕切りや壁、外部サッシを見直し、各部屋や廊下などが明るく健康的な空間を創り出します。色彩は、全体的に落ち着いた色調をベースに部屋ごとの雰囲気に変化をつけます。

5

社会・地域との関係性「開かれたキャンパス」

2

にぎわいの創出 「皆が集まる場所の創出」

学生が集まるにぎわいの空間を創出
さまざまなコミュニケーションやアクティビティを生み出す空間により、さまざまな出会いや体験を誘発する活気ある魅力的なキャンパスを目指します。

4

アクティブラーニング 「自主学習・自己表現の場」

学生のさまざまな「やりたい」をサポートする空間を創出
演習をはじめとしたグループワークや学生の主体的な学びを支えるスペースを設け、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を育む空間を生み出します。

Renewal



地域の方や外部の方々に利用しやすい開かれたキャンパスを創出
点在する校舎へのアプローチ動線や外部空間を見直し、外部からの利用のしやすさと外部との連携のしやすさを目指します。

6

可変性・柔軟性「サスナビリティ」

ハード面・ソフト面での持続可能なキャンパスを創出

設備配管のためのパイプスペースや二重壁、二重天井を設けることで将来的な設備の更新や用途の変更時にも美観を保ったままメンテナンスを行うことが可能になります。



コミュニティテラスのイメージ



ラーニング commons のイメージ

Renewal

Newspaper



きらり☆ MIZUHO

1

頂点目指して好発進 インターハイ出場決定(卓球 弓道)

高校の卓球部と弓道部がともに愛知県高等学校総合体育大会学校対抗(女子)で優勝し、今夏、北海道で開かれるインターハイへの出場が決定しました。なお、弓道部は個人でも優勝を飾りました。弓道部の団体(学校対抗)での出場は昭和48(1973)年以来50年ぶりです。県大会の成績は以下のとおりです(団体メンバーは割愛 個人はインターハイ出場者のみ)。

1



卓球部

女子学校対抗 **優勝**

女子シングルス 第3位 今枝 愛美 第4位 遊佐 美月
第5位 池間 夢良 第6位 稲垣 幸菜
第7位 宮本 早紀

女子ダブルス 第3位 今枝 愛美・遊佐 美月
第4位 池間 夢良・宮本 早紀



弓道部

女子団体の部 **優勝**女子個人の部 **優勝** 林 里穂

INFO MIZUHO

卒業生就職支援(大学・短大)

卒業生の皆様へ

本学では、就職を希望する卒業生への支援を行っております。就職活動が続けられる方、あるいは離職などにより再就職を希望する方に対して就職活動をサポートいたします。サポート内容は右記のとおりです。支援を希望する方は、キャリア指導室まで直接お問い合わせください(右記連絡先まで)。

1 求人情報の提供

(既卒者専用サイトをホームページより閲覧できます)

2

各種就職相談・模擬面接・提出書類の添削など
(在学生と同等の支援)

問合せ先/愛知みずほ大学 愛知みずほ短期大学 キャリア指導室
メール:sidou-amc@mizuho-c.ac.jp
電話:052-882-1193 FAX:052-882-1175



サポート内容

● 瑞 想 録 ●

瀬木学園のアスリートたちが輝きを増しています。今後も継続して採り上げていきますので、応援よろしくお願いします。また、大学・短大2号館(高校西体育館)改修工事に関しては、建物は単なる「容れ物」ではなく、その存在は、そこで過ごす人たちの意識をも変える重要な役割を持っていることを改めて確かめることができました。新たな価値を生み出し、よりよい学びの実現を目指す改修工事については、次号以降、より詳細にお伝えできると思いますのでご期待ください。

転寝